

未来の子どもたちに残したいマチへ マチごとエコタウン所沢

第30号



環境会報

所沢市環境推進員連絡協議会

所沢の魅力は、なんととっても！ 人とひと、自然との心地よい会話のあるマチです

所沢市環境推進員連絡協議会 会長 毛利 吉成

環境推進員の皆様におかれましては、お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。日頃、ゴミの減量や資源化への啓発や促進の取り組みに敬意を表する次第です。今夏はとりわけ猛暑といわれた日が何日かありました。利根・荒川水系の水不足には、節水にも努めました。夏ならではの暑さは、海で、山で、川で鋭気を養いました。涼味「冷しそうめん」おいしかったです。「打ち水」でおもてなしをしました。地域の夏祭りをみんなで楽しみました。花火や風鈴の音は夏の風情情緒です。ゴーヤや朝顔の緑は、涼しさをつくってくれました。森林で緑陰活動もしました。家族や地域の人とみんながそれぞれの夏を謳歌されたのではないかとおもいます。そんな中、日本各地では自然の猛威にさらされた悲惨な出来事がありました。

所沢市の魅力は、なんとと言っても首都近郊都市としての高い利便性と豊かな自然に囲まれた中で都市機能が調和していることにあります。「東日本大地震」は、6年が経過しました。この時に誰もが思われた事ではないかと思いますが、当たり前と思っていた便利さを享受する中で安閑としていた私がいたように思います。気がつかなかった、気にもしなかった事を魂の揺さぶりのように思い起してくれました。てらいのない、実直で自

然によりそった“人と人との縦糸、横糸が繋がりがあった絆”という言葉に会い真剣に考えもしました。そんな時、「絆」を一枚の布にしていくなかで実感できる幸せ感のあるマチにと“動こう所沢 つむごう絆”をキャッチフレーズに“自然と謙虚に向き合った所沢をみんなでつくっていこう”と藤本正人市長による新たな出発です。そのひとつには、循環型社会に向けたライフスタイルの意識改革です。地球にやさしいエネルギー利用、焼却型の生活から資源としての“もの”を大切に再活用、再使用による資源化に向けた実践活動です。今、資源循環の取り組みのひとつに、買い換えた携帯電話、不用になった電化製品の電気のコード中に含まれている金、銀、銅の回収です。家庭に眠っている「都市鉱山」の開発（採掘）です。これを集めて、オリンピック・パラリンピックのメダルに繋げて行こう、「所沢市民鉱山」から世界に発信です。



環境推進員の皆様の「もったいない」の言葉を形にしていくなかで夢のある取り組みとしてご理解いただきご協力をお願い申し上げます。

* マチごとエコタウン所沢構想の『ロゴ』ができました！

今号の表紙を見て皆さま何かお気づきではないでしょうか。そう！左上に見たことのない『ロゴ』が掲載されています。これは今年7月に市で作成した「マチごとエコタウン所沢構想」の理念を表現したロゴ、通称『マチエコロゴ』になります。

右上の太陽光が再生可能エネルギーの普及を訴え、木々がみどりを表し、木陰で手を繋いだ家族の姿は、構想の基本理念である「人と人、人と自然との絆で、未来と子どもを育む 所沢」を表現

しています。また、ロゴ全体を取り囲む矢印は、構想の名称にある「マチごと」を象徴的に表現し、さらに、リサイクルマークを想起させることにより、マチ全体で資源循環に取り組む姿勢を表しています。今後も何かと皆さまのお目にかかるかと思うこの『マチエコロゴ』をどうぞ宜しくお願いいたします。



所沢地区環境推進員協議会

環境推進員 117人

会長 小泉 英治
副会長 森 眞司・原 浩子
川俣 壽男



所沢地区では、毎年3月に環境推進員を対象とした「意見交換会」を開催しております。その内容ですが、各環境推進員の知識の向上等を図るための研修の一環としまして、平成18年度から始まり、例年、環境関連の講演会（出前講座）を実施しているところです。講演会終了後は、環境関連やその他のことについての意見及び情報交換などを行っています。

所沢市環境推進員連絡協議会

市長から委嘱された1,119人の環境推進員により組織された市内11地区の「地区環境推進員協議会」の代表2人、合計22人が理事として理事会を構成しています。「エネルギー」、「水・みどり」、「資源循環」を柱にした環境施策の円滑な推進に向けて行政や関係機関からの環境情報や地域環境情報など環境課題を共有し啓発普及活動を行っています。特に、今期は、「資源循環」を中心に「もったいないの心」の定着と「とことん資源化、とことん減量」をテーマに「もの」を大切にする行動の促進を図っています。

会長 毛利 吉成 (山口地区)
副会長 荻野 義雄 (三ヶ島地区)
副会長 稲津 昌幸 (新所沢地区)
副会長 鈴木 由紀子 (吾妻地区)
会計 宮高 隆 (並木地区)
監事 大館 正義 (小手指地区)
監事 荒木 孟 (柳瀬地区)
監事 田中 美光 (富岡地区)



富岡地区環境推進員協議会

環境推進員 65人

会長 田中 美光
副会長 市島 美津子

環境推進員協議会も地域の保全等に努力していきます。



「富岡地域づくり協議会への加入」について
富岡環境推進員協議会は昨年度、富岡地域づくり協議会に加入しました。地域づくり協議会は、各地域団体が同じ組織の仲間として課題を共有し解決を目指します。

並木地区環境推進員協議会

環境推進員 88人

会長 宮高 隆
副会長 藤原 正廣
理事 草間 睦
会計 河合 孝雄
監事 鈴木 良子
ツン 郁子

この4月から並木地区24自治会・町内会の環境推進員計88人中、新規改選が15自治会・町内会計54人。又5月25日に並木地区環境推進員協議会の総会にて、役員改選があり、左記のようにそれぞれ就任承されました。6月4日にもったいない市があり、今年、市営・雇用促進・県営・グリーン並木・北原・パークハイツ・ハイコーポ・若松・所沢住宅の自治会から計25人参加。7月4日の歩きたばこ防止キャンペーンには計11人参加。

柳瀬地区環境推進員協議会

環境推進員 67人

会長 荒木 孟
副会長 原 明宏・山下龍次郎

更に、地元の人にもったいない市の目的をPRして持ち込みだけでなく持ち帰りの人数増加を目標に進めていきたい。

もったいない市
毎年所沢地区で活動が最低との評価であったが、自治会へのPR活動、環境推進員の協力体制のもとに柳瀬まちづくりセンターホールを貸切、ようやく他地区レベルのもったいない市を開催できた。



山口地区環境推進員協議会

環境推進員 81人

会長 毛利 吉成
副会長 柴田 幸男・新居 亨一
糟谷 好雄・吉田 公平

「とことん資源化」を合言葉に、3Rを推進
西武西所沢駅踏切から県道所沢・村山55号線沿いの西武球場前までの柳瀬川、狭山丘陵、狭山湖など水とみどりに囲まれた環境の中、人口3万人、1万3000世帯、36自治・町内会から選出され委嘱された81名の推進員が地域環境活動をしています。協議会は、役員15名により役員会を構成、日常の地域活動はも



航空記念公園外周道路の清掃活動

松井地区環境推進員協議会

環境推進員 125人

会長 池田 一美
副会長 池田 治男

人たちが憩える広場を整備しました。



松井地区では、「環境美化の日」や「もったいない市」など市の環境行政への協力と並行して、松井まちづくり協議会環境自然部会としての活動も行っています。その一環として、今年3月に松井まちづくりセンター中庭の芝生植栽作業を行い、地域の

小手指地区環境推進員協議会

環境推進員 132人

会長 大館 正義
副会長 片居木 栄
副会長兼会計 関口 典男
監事 平野 俊浩・並木 幹郎

要事業について理解を深め、より質の高い活動を目指すため、代表者会議を開催しました。

当地区は、加盟69自治会で132人（代表者69人）が委嘱を受けており、様々な事業に取り組んでいます。今年度は、全体の1/3が新規推進員となっているため、年度後半の主



吾妻地区環境推進員協議会

環境推進員 130人

会長 鈴木 由紀子
副会長 室岡 典行・内野 禮雄

「環境美化の日」の活動においても各町内会・自治会のご協力のもと、地域の「リサイクル・環境美化」に多くの皆様に参加を頂き、活動が実施されております。

吾妻地区では、毎回各会場盛況に開催される「もったいない市」のPRポスターを昨年再利用可能な独自な物を作成し、各町内会・自治会のご協力のもと掲示板に貼り、好評を得ております。また、「古紙回収」や「環境美化



三ヶ島地区環境推進員協議会

環境推進員 126人

会長 荻野 義雄 (三ヶ島第3区自治会)
副会長 星野 君子 (三ヶ島第13区自治会)
会計 西海 寛 (三ヶ島第11区自治会)
監事 倉島 景一
堤 淳

理事 上田 時雄 (三ヶ島第1区自治会)
市川 健太郎 (三ヶ島第2区自治連合会)
水村 栄 (三ヶ島第4区自治連合会)
池田 美也子 (三ヶ島第5区自治会)
小野 章 (三ヶ島第6区自治連合会)
佐藤 文昭 (東狭山ヶ丘自治連合会)
金子 香代子 (三ヶ島地区第8区自治会)
梅原 なおみ (三ヶ島第9区自治会)
浦生 活樹 (所沢市若狭一丁目自治会)
羽鳥 信一郎 (所沢グリーンヒル自治会)
泉田 公介 (若狭三丁目町会)
関根 正志 (若狭四丁目町会)
黒田 秀一 (三ヶ島第12区自治会)
白賀 宣三 (セキスイ狭山ヶ丘自治会)

新所沢地区環境推進員協議会

環境推進員 120人

会長 稲津 昌幸
副会長 久下 紀世

られる形でしたが元気で終了宣言。

5/28日曜環境美化の日、6/4日曜もったいない市、どの催しも当環境推進員連は全力で取り組みました。7/4火曜夕方6時から新所沢駅前「歩きたばこ防止啓発キャンペーン」約20分でティッシュ配り完了、次第に雨が強まり駅構内に追い詰め



新所沢東地区環境推進員協議会

環境推進員 68人

会長 宮沢 勝利
副会長 池上 洋司

ス停などのゴミ拾い・草取りを行っています。

7月の「歩きたばこ等の防止啓発キャンペーン」の際、午後5時から富岡地区の推進員と一緒に新所沢駅前（東口）の清掃を実施しています。のぼり旗を先頭にハンドマイクで「歩きたばこは止めましょう」と訴えながら、通りやバ



*** 航空記念公園外周道路清掃時
(10月21日)に不要な小型家電を回収します！**

今年4月から所沢市が参画する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」というものがごございます。来る東京オリンピック・パラリンピックに向けて、家庭に眠る不要な小型家電製品を回収し、そこから抽出した金・銀・銅を使ってメダルを作成するという全国的なプロジェクトです。所沢市ではこれらの金属の含有率が高く回収ニーズが高い5品目(※1)を市内5拠点(※2)で回収しています。この11月からは、各まちづくりセンターにも回収ボックスを設置し、より多くの方がプロジェクトに参加できるようになる予定です。(※3)今般、10月21日に行われます航空記念公園外周道路清掃時にも本プロジェクトに係る回収を行いますので、清掃に参加される皆様におかれましては、提供できる不要な小型家電製品(5品目に限る)をご家庭にある場合は、可能な範囲で構いませんので、ご持参いただければ、その場(開会式)で回収し、プロジェクト参画記念の感謝カードを配布させていただきます。なお、翌週(28日・29日)に開催されます市民フェスティバルにおいても、回収を実施いたします。

- ※1 携帯電話・デジタルカメラ・ゲーム機・時計・コード類
- ※2 本庁舎1階玄関横・東所沢エコステーション・東西クリーンセンター・リサイクルふれあい館
- ※3 東京2020組織委員会にて定められたルールにより、通常の集積所で小型家電を廃棄されても、本プロジェクトの回収分にはカウントされません。

*** 「粗大ごみの収集」について**

粗大ごみの収集は、昨年度まで東西クリーンセンターで各々のエリアを担当して受付から収集まで行っていました。今年度からは、東所沢エコステーション内に「粗大ごみ受付センター」を設置して受付及び収集窓口を1本化したため、問い合わせ先も解りやすくなり、さらに土曜日・日曜日にも業務を行っていることから、市民の利便性の向上につながっています。また、昨年度までは通常のごみ収集の合間に粗大ごみの収集を行っていたため収集しない日もあり、市民の収集希望日に回収する事が出来なかつたり、収集までに時間がかかりかかっていたのですが、粗大ごみの収集に特化することにより、前もって依頼があれば収集希望日に対応できる日が増えたり、収集までの期間の短縮にもなりました。(月曜定休、祝祭日休業以外)現在、粗大ごみ収集を専門にこなすことにより、まだ使えそうな家具類については、リサイクルふれあい館に運んでリサイクルし、市民向けに頒布しています。これにより、今まで以上にごみの資源化・減量化に貢献しています。

*** 生ごみ水切りでイヤな臭いを防止しましょう
(リサイクルふれあい館)**

夏場の生ごみで、たった1日置いておいただけでイヤな臭いがしてくる経験、皆さんありますよね。実は臭いの原因の多くは、生ごみ中の水分です。(生ごみの7割~8割は水分と言われています。)生ごみ水切りをしっかりといただくことで、悪臭を軽減し、重さも減らすことができます。暑い時期は、水分の多いものを食べる量が増え、生ごみ(生ごみ中の水分)が多いと、ごみの重さが増えるだけでなく、ごみを燃やした時の燃焼効率が悪くなり、環境にもよくありません。

多少面倒なことではありますが、一人当たり一日10gごみの量を減らすと、市全体で年間8,600万円の節約にもなるので、特に夏場は、ぜひご家庭での生ごみ水切りにご協力ください！

☆生ごみ水切りのやり方(例)

その1 不要となったCDの穴に水切りネットを通して絞る。

その2 生ごみの収集日前夜、水切りネットに重石や水入りペットボトルを置いて重しにする。

その3 ざる、新聞紙または、生ごみ用水切りボックスを作り、乾かす。

※水切りネットがない場合、例えば、使用済のストッキング(膝くらいの長さに切ったもの)やレジ袋やポリ袋にパンチで何箇所か穴を開ければ、水切りネットが出来上がります。



*** 秋季「環境美化の日」は
平成29年11月5日(日)です。**

編集後記

おかげさまで30号を発行する運びとなりました。

平成8年4月、環境保全への関心と理解を深める「所沢市環境推進員設置要綱」に基づき、推進員制度がもうけられてから21年になります。同時に連絡協議会が立ち上がり平成9年2月に創刊号「所沢市環境推進員連絡協議会」が発行されました。爾来、初代会長浅海守氏はじめ歴代会長・役員の皆様の一滴一滴の深甚なる思いに敬意を表する次第です。水を飲むとき井戸を掘った人を忘れるなかれ」とあります。これからも推進員の良好な環境関係づくりの情報誌として発信していきます。(編集委員一同)

編集委員(◎印は委員長)
◎荻野 義雄(三ヶ島)、久下 紀世(新所沢)、
新居 亨一(山口)、宮高 隆(並木)
事務局:所沢市 環境クリーン部 生活環境課

☎04-2998-9370

所沢市のホームページ
<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>